

第3部

「潜在能力の科学」国際フォーラム

Human PSI Forum

開催 2002年8月22日～27日、幕張にて

13回の「生命情報科学シンポジウム」を年2回ずつ主催して来た、当学会が、他の協力を得て、本分野で画期的な国際フォーラムを主催した。

国際総合研究機構 (*IRI*) (第4部内参照)が、フォーラムの事務局を担当。

9カ国から29名の外国人を含む総勢450名が結集し、予想を越えた盛況となった。

詳細は、国際生命情報科学会誌20巻2号がその予稿特集号として発行されている。和訳付は、国際版、約500頁、本体価格2,500円+税+送料。

この成果を受け継ぎ発展させてる目的で、2004年8月26日～29日に韓国ソウルにて、「こころと体の科学国際会議」を主催する(本書末尾参照)。

Human PSI Forum 委員一覧

フォーラム企画委員会

委員長

渥美和彦 東京大学 名誉教授、
日本学術会議 会員・第七部会 元部長、
日本代替・相補・伝統医療連合会議 理事長、
日本統合医療学会 代表

コーディネーター

山本幹男 国際生命情報科学会(ISLIS)理事長、
特定非営利活動法人 国際総合研究機構(IRI)
副理事長、
放射線医学総合研究所 上席研究員

コ・コーディネーター

長谷川洋作 (財)未来工学研究所 常務理事・研究所長
伊藤正敏 ISLIS 会長、IRI 理事、東北大学教授

フォーラム組織委員会

顧問

ISLIS 顧問
IRI 推進会議

委員長

伊藤正敏 (前記)

副委員長

横浜征四 (財)未来工学研究所政策総合研究センター
主任研究員

委員

ISLIS 役員・評議員
IRI 役員

委員(海外)

Robert L. Morris 英国 エジンバラ大学
ケストラー超心理学講座 教授
Dick J. Bierman オランダ アムステルダム大学 助教授、
ユトレヒト大学教授

委員(後援学会)

渥美和彦 (前記)
杉下守弘 日本超心理学会 運営委員長、
東京大学大学院 脳神経医学 教授
遠藤俊吉 日本催眠学会 会長、
日本医科大学 精神医学教室 主任教授
帯津良一 特定非営利活動法人 日本ホリスティック
医学協会 会長、
帯津三敬病院 名誉院長
春木豊 人体科学会 会長、
早稲田大学人間科学部 教授
福生吉裕 日本未病システム学会 常任理事、
日本医科大学 客員教授、
(財)博慈会 老人病研究所 所長
高橋一祐 日本歯科東洋医学会 監事、
東京歯科大学 名誉教授

「こころと体の不思議」国際フォーラム 企画委員会

委員長

長谷川洋作 (前記)

委員

横浜征四 (前記)
近藤鉄雄 (株)新時代戦略研究所 代表取締役、
元労働大臣、元経済企庁長官、
IRI 推進会議

岡崎久彦 (株)博報堂 特別顧問、
岡崎研究所 所長、元大使、
IRI 推進会議

町好雄 東京電機大学大学院 教授、IRI 理事
河野貴美子 日本医科大学 情報科学センター、
IRI 理事

山本幹男 (前記)

フォーラムプログラム委員会

委員長

山本幹男 (前記)

委員

伊藤正敏 (前記)
町好雄 (前記)
河野貴美子 (前記)
樋口雄三 東京工業大学大学院 教授、
ISLIS 常務理事、IRI 理事
小久保秀之 ISLIS 理事、事務局長、編集部長
Robert L. Morris (前記)
Dick J. Bierman (前記)

フォーラム事務局 IRI

事務局長

小久保秀之 (前記)

事務局員

渋谷真由美
橋本和江
藤田真理子

Human PSI Forum

『潜在能力の科学』国際フォーラム
 - 物理・生理学的アプローチ -
 joint with 「こころと体の不思議」国際フォーラム
 and 第14回生命情報科学シンポジウム (国際版)

於：(財) 海外職業訓練協会(OVTA)



国際フォーラム吊看板



8月23日（金）視察・交流ツアー 独立行政法人 放射線医学総合研究所

山本生体放射研究室 視察・研究交流



放射線医学総合研究所 山本生体放射研究室 実験棟（多目的棟）前にて 集合写真



山本生体放射研究室 実験棟 視察



研究交流 大会議室にて

● 8月23日（金）視察・交流ツアー 成田山、房総の村



成田山にて



房総の村にて

8月23日（金）オープニングカクテル（OVTA ラウンジにて）



● 8月24日(土)「こころと体の不思議」国際フォーラム



フォーラム会場 (OVTA レセプションホール渚)



朝の気功体験実践 (指導：帯津良一)



表彰式



海外からの招待者によるパネルディスカッション



徐 蘭許



ディック・J・ビールマン



全 世一



ロバート・L・モリス



劉 天君



ディーン・ラディン

● 8月25日(日)～8月26日(月)

Human PSI Forum "Human Potential Science" International Forum

「潜在能力の科学」国際フォーラム& 第14回生命情報科学シンポジウム(国際版)



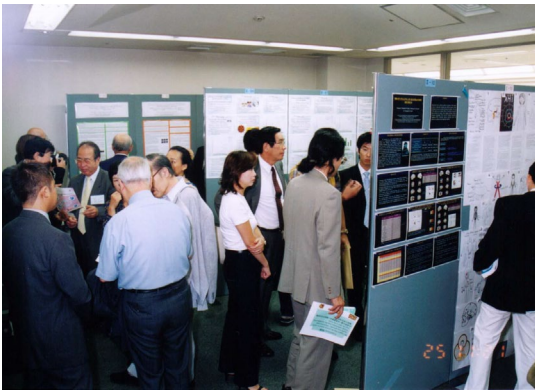
朝の気功体験実践(指導:劉超)



講演学会代表者 パネル討論



河村建夫 衆議院 文部科学委員長 ご挨拶



ポスター会場



表演 一刀流



8月26日(月)懇親会



● 8月27日（火）サテライト・ワークショップ



●アフターツアー 見浜園



見浜園 茶房にて

● アフターツアー 皇居



浅草寺にて

「潜在能力の科学」国際フォーラム 趣意と総括

Prospectus and Summary of *Human PSI Forum*,
"Human Potential Science" International Forum

要旨：国際生命情報科学会 (*ISLIS*) と財団法人 未来工学研究所の主催で、*Human PSI Forum*, "Human Potential Science" International Forum 『潜在能力の科学』国際フォーラムー物理・生理学的アプローチ joint with 「こころと体の不思議」国際フォーラム and 第 14 回生命情報科学シンポジウム (国際版) を日本の千葉市 幕張 OVTA で 2002 年 8 月 22 日-27 日に、450 名、9 カ国からの参加を得て開催し、成功した (予稿は、*Journal of ISLIS*, Journal of International Society of Life Information Science Vol.20, No.2, 2002 に掲載)。

2004 年 8 月には、この成果を発展させる国際フォーラムのソウルでの開催が計画されている。

趣 意

科学の最前線

20 世紀までの科学技術は、主として心・精神・意識から独立した、客観的物質世界を研究対象とするというパラダイム (枠組) を築き、その旗の下に大きな成果をあげてきました。反面、心・精神・意識が関与する様々な現象の研究は、重要にもかかわらず、政官学の対象外に置かれ、その結果、積極的に研究されずに大きく取り残されてきたと言えます。

しかし、今世紀においては、心・精神・意識の研究こそが、まさに科学の最前線であり、最も重要な研究分野なのです。この分野には、気功、瞑想、笑い、音楽、香り、森林浴など、人間のリラクセス、予防医科学、健康の維持増進、癒しや自然治癒力など人間の「潜在能力」と深く関わっているものがたくさんあります。すなわち、潜在能力を研究することは、多くの人が待ち望んでいる新しい医療の基礎を研究することにもなります。さらに、21 世紀の科学技術と文化の新パラダイムを生み出すと共に、教育、健康、福祉と社会および個人の心の豊かさを増進させ、自然と調和した平和な社会作りにも役立つことが期待できます。

こころと体の不思議

人間の潜在能力には、まだ、よくわかっていない多くの事柄があります。中には、20世紀の科学技術では説明が付きそうもない不思議な現象があるとも言われています。その謎をひとつひとつ解き明かすためには、学際的・国際的に英知を結集し、さまざまな角度から研究し、討論を重ねる必要があります。

近年の活動

「潜在能力」に対する日本の研究活動は、最近20～30年間に徐々に活発化してきました。特に、1970年代以降は、特異能力ブームや気功ブームの影響で、「潜在能力」に対する新たな関心の高まりと実践の広まりがあり、科学的・学術的研究をめざす学会の設立も相次ぎました（*Journal of ISLIS* 20(2) 337頁参照）。1995年からは放射線医学総合研究所の研究室を中心に、「潜在能力」の科学的研究に日本の国や公的予算が配分されました（331,337,340頁）。またこの分野専門の国際生命情報科学会（*ISLIS*）が設立され（279,282頁）、年2回の「生命情報科学シンポジウム」の開催（本フォーラムはその第14回にあたる）、英文（和訳付）の学会誌の発行（*Journal of ISLIS*、本フォーラムの予稿集もこの20巻2号に掲載）などで一段と科学的研究が活発化しました。また、国際的な代替医療への関心の高まりの中で、1998年には日本代替相補伝統医療連合会議（*JACT*）が、2000年には日本統合医療学会（*JIM*）が設立され活発な活動を行っています（303頁）。これらの学会の多くは、本フォーラムの後援などでご協力頂きました。

一方、海外においても特異能力、気功、代替医療など「潜在能力」に関する関心が高まり、多くの実践や科学的研究と様々な会議が行われてきました。日本からも多くの研究者や市民が海外の活動への参加や視察、学会への参加や共同研究で交流を深めてきました。日本では2001年に、科学技術振興事業団の主催により異分野研究者交流フォーラム—新パラダイム創成に向けて—「こころと精神の関与する科学技術」および「統合医療フォーラム」が開催されました。

総 括

本 Human PSI Forum は、これらの成果を土台にして、これらの活動を支えてきた国内外の有力研究者、学会、公的・準公的および民間の諸機関や市民の力を結集して、研究や実践を通じて得られた新しい知見を発表し、学際的・国際的に検討する画期的なフォーラムとして、2002年8月22日(木)から27日(火)まで千葉市 幕張新都心(財)海外職業訓練協会(OVTA)で開催されました。

本フォーラムの本会議の第1日目の24日は、「こころと体の不思議」と題して広く市民にも参加を呼び掛けました。海外からを含め日本人以外が約30名で、総勢450名と予想をはるかに越える多くの方々のご参加を頂きました。また、日本国の元大臣、国会議員、衆議院文部科学委員長(前後は文部科学省副大臣)や日本学術会議会員、公的・準公的機関、民間などの要職の方々もご参加下さり、ご挨拶を頂きました。皆様方のご協力に感謝致します。

6人の海外からの招待特別講演を含む、68題の学術的講演や研究発表と海外招待講演者および後援学会代表者による2つのパネルディスカッション、10の表演、ワークショップ、研究所視察、交流、ツアーなどが活発に行われました。

最終日のサテライト・ワークショップで海外から参加された研究者の評価を頂きました。本フォーラムに対しては高い評価を受けました。ただし、討論の時間がもっと欲しかったとの意見が多くでした。日本の研究に対しても高い評価を受けると共に、対照群や西洋的手法ももっと広く取り入れるべきであるとの意見もでした。

本分野の研究の益々の発展が、予防医学や統合医療の基礎を築き、また新パラダイムを創成する可能性が高いことが確認されました。

米国の国立衛生研究所(NIH)では、その National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM)などを通じ、補完代替医療の研究のための2003年度予算約336億円の例を始め、いくつかの国では、既に本分野に力を入れて予算を配分しています。

今後の「潜在能力の科学」分野の研究の発展に必要な不可欠な事項を列挙します。

1. 「潜在能力の科学」の研究予算を拡充すること。
2. 他の大型研究予算体系の中に、新パラダイム創成に向けての本分野(精神

- エネルギーや、潜在能力の物理生物学、伝統的健康法および心身鍛錬法、精神心理療法、など)の領域を創ること。
3. 本分野の研究を恒常的に行える「精神エネルギー研究所(仮称)」や「潜在能力科学研究所(仮称)」を早急に設立すること。
 4. 西洋医療を中心として、代替医療を包括する統合医療への取り組みを強化し、研究を推進すること。
 5. 統合医療に関連する大学の設立や、学部、学科、講座、大学院の早急な増設。
 6. 本分野の、学際的・国際的な関連学会や研究機関との交流のための予算強化。

なお、2004年8月下旬には本フォーラムの続きの国際フォーラムを韓国ソウルにて開催する計画もされています。

本フォーラムの成果が人間や生体のもつ潜在的可能性を明らかにし、私たち人類の健康で平和な社会作りに貢献することを期待しています。

最後になりましたが、本フォーラムの開催の成功のために、ご指導、ご支援下さいました方々、お骨折り下さいました諸機関や多くの方々には深く感謝申し上げます。

また、科学技術振興事業団、日本財団をはじめ、広く日本の公的・準公的機関ならびに民間団体・会社および個人、ならびにアメリカの研究所 **Samueli Institute for Information Biology** より、貴重な資金のご提供を賜りました事を深く感謝申し上げます (*Journal of ISLIS* 20(2) 275 頁)。

2003年1月31日

Human PSI Forum

企画委員長	渥美 和彦 日本学術会議 会員 東京大学 名誉教授
コーディネーター	山本 幹男 国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長 国際総合研究機構 (IRI) 副理事長 放射線医学総合研究所 (NIRS) 上席研究員
コ-コーディネーター	長谷川 洋作 財団法人 未来工学研究所 常務理事・研究所長
コ-コーディネーター	伊藤 正敏 国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長 東北大学 教授

Human PSI Forum

2002年8月22日～27日 幕張 OVTA

参加者数まとめ

皆様の献身のご協力のおかげをもちまして、予想を大幅に上回る盛会となり、海外からの参加者からも高い評価を得ることができ、すべて手作りで不備なこともあったと事と思いますが、基本的には大成功したといえると思います。

会場定数 225 名、参加目標 220 名に対し、会期が近づくと参加申込みが急増し、椅子席を最大限に増やし 300 名近く入る体制をとりましたが、それもオーバーすることが判明し、1 週間前からは申込受付終了のホームページ掲載と申込みの電話に対するお断りの処置をとりました。

<人数> (名前の数で、延人数ではありません。)

総人数 約 450 名
(朝の体験実践のみの参加者も含む)

会場総人数 420 名
(受付スタッフ等 14 名含む)

参加者数 406 名
(招待、表演、展示、取材、
会場スタッフなど含む。
受付スタッフ 14 名除く)

*受付・会場両方担当したボランティアは会場スタッフとする。

<内、外国人> 8 カ国 (日本を含め 9 ヶ国参加)
海外からの外国人 19 名
(アメリカ、イギリス、オランダ、ロシア、中国、韓国)

内、招待者 6 名
国内からの外国人 10 名
(アメリカ、イタリア、ブラジル、中国、韓国)

合計 29 名 (国籍非明示者を除く)

<日別>

8/23 (金) ツアー午前 (放医研)
60 名
(スタッフ 14 名含む)

ツアー午後 (成田方面)
33 名
(スタッフ 2 名含む)

オープニングカクテル 約 70 名

8/24 (土) 朝の体験実践 約 90 名
「こころと体の不思議」
総人数 362 名
参加者数 341 名

8/25 (日) 朝の体験実践 約 50 名
Human PSI Forum
総人数 209 名
参加者数 191 名

8/26 (月) 朝の体験実践 約 40 名
Human PSI Forum
総人数 207 名
参加者数 194 名

懇親会 約 70 名

8/27 (火) サテライト・ワークショップ
40 名
(スタッフ含む)

「潜在能力の科学」国際フォーラム 趣意と総括

Prospectus and Summary of *Human PSI Forum*,
"Human Potential Science" International Forum

要旨：国際生命情報科学会 (*ISLIS*) と財団法人 未来工学研究所の主催で、*Human PSI Forum*, "Human Potential Science" International Forum 『潜在能力の科学』国際フォーラムー物理・生理学的アプローチ joint with 「こころと体の不思議」国際フォーラム and 第 14 回生命情報科学シンポジウム (国際版) を日本の千葉市 幕張 OVTA で 2002 年 8 月 22 日-27 日に、450 名、9 カ国からの参加を得て開催し、成功した (予稿は、*Journal of ISLIS*, Journal of International Society of Life Information Science Vol.20, No.2, 2002 に掲載)。

2004 年 8 月には、この成果を発展させる国際フォーラムのソウルでの開催が計画されている。

趣 意

科学の最前線

20 世紀までの科学技術は、主として心・精神・意識から独立した、客観的物質世界を研究対象とするというパラダイム (枠組) を築き、その旗の下に大きな成果をあげてきました。反面、心・精神・意識が関与する様々な現象の研究は、重要にもかかわらず、政官学の対象外に置かれ、その結果、積極的に研究されずに大きく取り残されてきたと言えます。

しかし、今世紀においては、心・精神・意識の研究こそが、まさに科学の最前線であり、最も重要な研究分野なのです。この分野には、気功、瞑想、笑い、音楽、香り、森林浴など、人間のリラクセス、予防医科学、健康の維持増進、癒しや自然治癒力など人間の「潜在能力」と深く関わっているものがたくさんあります。すなわち、潜在能力を研究することは、多くの人が待ち望んでいる新しい医療の基礎を研究することにもなります。さらに、21 世紀の科学技術と文化の新パラダイムを生み出すと共に、教育、健康、福祉と社会および個人の心の豊かさを増進させ、自然と調和した平和な社会作りにも役立つことが期待できます。

こころと体の不思議

人間の潜在能力には、まだ、よくわかっていない多くの事柄があります。中には、20世紀の科学技術では説明が付きそうもない不思議な現象があるとも言われています。その謎をひとつひとつ解き明かすためには、学際的・国際的に英知を結集し、さまざまな角度から研究し、討論を重ねる必要があります。

近年の活動

「潜在能力」に対する日本の研究活動は、最近20～30年間に徐々に活発化してきました。特に、1970年代以降は、特異能力ブームや気功ブームの影響で、「潜在能力」に対する新たな関心の高まりと実践の広まりがあり、科学的・学術的研究をめざす学会の設立も相次ぎました（*Journal of ISLIS* 20(2) 337頁参照）。1995年からは放射線医学総合研究所の研究室を中心に、「潜在能力」の科学的研究に日本の国や公的予算が配分されました（331,337,340頁）。またこの分野専門の国際生命情報科学会（*ISLIS*）が設立され（279,282頁）、年2回の「生命情報科学シンポジウム」の開催（本フォーラムはその第14回にあたる）、英文（和訳付）の学会誌の発行（*Journal of ISLIS*、本フォーラムの予稿集もこの20巻2号に掲載）などで一段と科学的研究が活発化しました。また、国際的な代替医療への関心の高まりの中で、1998年には日本代替相補伝統医療連合会議（*JACT*）が、2000年には日本統合医療学会（*JIM*）が設立され活発な活動を行っています（303頁）。これらの学会の多くは、本フォーラムの後援などでご協力頂きました。

一方、海外においても特異能力、気功、代替医療など「潜在能力」に関する関心が高まり、多くの実践や科学的研究と様々な会議が行われてきました。日本からも多くの研究者や市民が海外の活動への参加や視察、学会への参加や共同研究で交流を深めてきました。日本では2001年に、科学技術振興事業団の主催により異分野研究者交流フォーラム—新パラダイム創成に向けて—「こころと精神の関与する科学技術」および「統合医療フォーラム」が開催されました。

総 括

本 Human PSI Forum は、これらの成果を土台にして、これらの活動を支えてきた国内外の有力研究者、学会、公的・準公的および民間の諸機関や市民の力を結集して、研究や実践を通じて得られた新しい知見を発表し、学際的・国際的に検討する画期的なフォーラムとして、2002年8月22日(木)から27日(火)まで千葉市 幕張新都心(財)海外職業訓練協会(OVTA)で開催されました。

本フォーラムの本会議の第1日目の24日は、「こころと体の不思議」と題して広く市民にも参加を呼び掛けました。海外からを含め日本人以外が約30名で、総勢450名と予想をはるかに越える多くの方々のご参加を頂きました。また、日本国の元大臣、国会議員、衆議院文部科学委員長(前後は文部科学省副大臣)や日本学術会議会員、公的・準公的機関、民間などの要職の方々もご参加下さり、ご挨拶を頂きました。皆様方のご協力に感謝致します。

6人の海外からの招待特別講演を含む、68題の学術的講演や研究発表と海外招待講演者および後援学会代表者による2つのパネルディスカッション、10の表演、ワークショップ、研究所視察、交流、ツアーなどが活発に行われました。

最終日のサテライト・ワークショップで海外から参加された研究者の評価を頂きました。本フォーラムに対しては高い評価を受けました。ただし、討論の時間がもっと欲しかったとの意見が多くでした。日本の研究に対しても高い評価を受けると共に、対照群や西洋的手法ももっと広く取り入れるべきであるとの意見もでした。

本分野の研究の益々の発展が、予防医学や統合医療の基礎を築き、また新パラダイムを創成する可能性が高いことが確認されました。

米国の国立衛生研究所(NIH)では、その National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM)などを通じ、補完代替医療の研究のための2003年度予算約336億円の例を始め、いくつかの国では、既に本分野に力を入れて予算を配分しています。

今後の「潜在能力の科学」分野の研究の発展に必要な不可欠な事項を列挙します。

1. 「潜在能力の科学」の研究予算を拡充すること。
2. 他の大型研究予算体系の中に、新パラダイム創成に向けての本分野(精神

- エネルギーや、潜在能力の物理生物学、伝統的健康法および心身鍛錬法、精神心理療法、など)の領域を創ること。
3. 本分野の研究を恒常的に行える「精神エネルギー研究所(仮称)」や「潜在能力科学研究所(仮称)」を早急に設立すること。
 4. 西洋医療を中心として、代替医療を包括する統合医療への取り組みを強化し、研究を推進すること。
 5. 統合医療に関連する大学の設立や、学部、学科、講座、大学院の早急な増設。
 6. 本分野の、学際的・国際的な関連学会や研究機関との交流のための予算強化。

なお、2004年8月下旬には本フォーラムの続きの国際フォーラムを韓国ソウルにて開催する計画もされています。

本フォーラムの成果が人間や生体のもつ潜在的可能性を明らかにし、私たち人類の健康で平和な社会作りに貢献することを期待しています。

最後になりましたが、本フォーラムの開催の成功のために、ご指導、ご支援下さいました方々、お骨折り下さいました諸機関や多くの方々には深く感謝申し上げます。

また、科学技術振興事業団、日本財団をはじめ、広く日本の公的・準公的機関ならびに民間団体・会社および個人、ならびにアメリカの研究所 **Samueli Institute for Information Biology** より、貴重な資金のご提供を賜りました事を深く感謝申し上げます (*Journal of ISLIS* 20(2) 275 頁)。

2003年1月31日

Human PSI Forum

企画委員長	渥美 和彦 日本学術会議 会員 東京大学 名誉教授
コーディネーター	山本 幹男 国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長 国際総合研究機構 (IRI) 副理事長 放射線医学総合研究所 (NIRS) 上席研究員
コ-コーディネーター	長谷川 洋作 財団法人 未来工学研究所 常務理事・研究所長
コ-コーディネーター	伊藤 正敏 国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長 東北大学 教授

Human PSI Forum

2002年8月22日～27日 幕張 OVTA

参加者数まとめ

皆様の献身のご協力のおかげをもちまして、予想を大幅に上回る盛会となり、海外からの参加者からも高い評価を得ることができ、すべて手作りで不備なこともあったと事と思いますが、基本的には大成功したといえると思います。

会場定数 225 名、参加目標 220 名に対し、会期が近づくと参加申込みが急増し、椅子席を最大限に増やし 300 名近く入る体制をとりましたが、それもオーバーすることが判明し、1 週間前からは申込受付終了のホームページ掲載と申込みの電話に対するお断りの処置をとりました。

<人数> (名前の数で、延人数ではありません。)

総人数 約 450 名
(朝の体験実践のみの参加者も含む)

会場総人数 420 名
(受付スタッフ等 14 名含む)

参加者数 406 名
(招待、表演、展示、取材、
会場スタッフなど含む。
受付スタッフ 14 名除く)

*受付・会場両方担当したボランティアは会場スタッフとする。

<内、外国人> 8 カ国 (日本を含め 9 ヶ国参加)
海外からの外国人 19 名

(アメリカ、イギリス、オランダ、ロシア、中国、韓国)

内、招待者 6 名

国内からの外国人 10 名
(アメリカ、イタリア、ブラジル、中国、韓国)

合計 29 名 (国籍非明示者を除く)

<日別>

8/23 (金) ツアー午前 (放医研)
60 名
(スタッフ 14 名含む)

ツアー午後 (成田方面)
33 名
(スタッフ 2 名含む)

オープニングカクテル 約 70 名

8/24 (土) 朝の体験実践 約 90 名
「こころと体の不思議」
総人数 362 名
参加者数 341 名

8/25 (日) 朝の体験実践 約 50 名
Human PSI Forum
総人数 209 名
参加者数 191 名

8/26 (月) 朝の体験実践 約 40 名
Human PSI Forum
総人数 207 名
参加者数 194 名

懇親会 約 70 名

8/27 (火) サテライト・ワークショップ
40 名
(スタッフ含む)

Human PSI Forum プログラム

会期：2002年8月22日(木)～27日(火)
主会場：レセプションホール渚(幕張新都心、海外職業訓練協会(OVTA)2階)
山本 幹男 フォーラム コーディネーター

国際生命情報科学学会誌20巻2号
掲載頁

8月22日(木)

13:00- 受付開始(OVTA2階 応接室) 小久保 秀之 フォーラム事務局長
渋谷 真由美 フォーラム事務局員
藤田 真理子 通訳担当事務局員

8月23日(金)

8:30-17:00 視察交流ツアー 橋本 和江 ツアー担当事務局員
8:30 出発 会場(OVTA)より専用バスで移動
9:00 放射線医学総合研究所(放医研) 山本生体放射研究室 視察
11:30 放医研より専用バスで移動
午後 成田山にて、昼食、境内視察
房総の村にて、村内見学、鎧兜着付け、折り紙・葛餅作り等体験
17:00 到着 会場(OVTA)に戻る

18:00-20:00 オープニング・カクテル (ブラウジングルーム(ラウンジ)、OVTA5階)

ご挨拶 近藤 鉄雄 元労働大臣、元経済企画庁長官、ISLIS 特別顧問
渥美 和彦 日本学術会議会員、東大名誉教授、日本統合医療学会代表、ISLIS 学術顧問
海外招待講演者、ほか

8月24日(土)「こころと体の不思議」国際フォーラム

7:00-8:00 気功の体験 実技指導 帯津 良一 (帯津三敬病院 名誉院長、日本ホリスティック医学協会 会長)
(晴天：OVTA 向いの公園内、雨天：OVTA2階ホール渚の前)

総合司会 小山 悠子、山本 江里香 医療法人 社団明徳会 福岡歯科 専務理事、医局員

■ 午前の部 (9:00-11:45)

272, 337, 340

開会の辞 山本 幹男 フォーラム コーディネーター、国際生命情報科学学会(ISLIS) 理事長
主催者代表挨拶 長谷川 洋作 フォーラム コ・コーディネーター、(財)未来工学研究所 常務理事・研究所長
来賓挨拶 近藤 鉄雄 フォーラム企画委員、(株)新時代戦略研究所 代表取締役、元労働大臣
河村 建夫 衆議院議員、衆議院 文部科学委員長 (2003年12月現在は 文部科学大臣)

(25日16:30)

9:20-9:30 表彰式 授与者 伊藤 正敏 国際生命情報科学学会(ISLIS) 会長、東北大学 教授
河野 貴美子 国際生命情報科学学会(ISLIS) 学会賞選考委員長、
日本医科大学 情報科学センター 主任研究員

受賞者 功労賞 ロバート・L・モリス 英国 エジンバラ大学 教授

奨励発表賞 上田 至宏 関西鍼灸短期 大学生理学教室 教授

奨励発表賞 町 好雄 東京電機大学大学院 工学研究科 教授

代替・相補・伝統医療と潜在能力-1 (9:30-11:45)

9:30-10:10 座長 野辺地 篤郎 聖路加国際病院 元院長、放射線科 名誉院長

基調講演 21世紀は統合医療になる 303

渥美 和彦 国際生命情報科学学会(ISLIS) 学術顧問、日本学術会議 会員、東京大学 名誉教授、
日本統合医療学会(JIM) 代表、日本代替・相補・伝統医療連合会議(JACT) 理事長

表 演 劉 超、ほか (JACT 後援オルターライフ養生気功インストラクタ教室)

10:20-10:55 座長 福岡 明 医療法人社団明徳会 会長、福岡歯科統合医療研究所 所長

基調講演 代替相補療法とイチローの打撃 304

帯津 良一 帯津三敬病院 名誉院長、日本ホリスティック医学協会 会長

11:05-11:45 **座長 高良 和武** 国際総合研究機構 (IRI) 理事長、東京大学 名誉教授
特別招待講演 全体的治療における心と体の関係 310
全 世一 韓国 Pochon CHA大学代替相補医療大学院 院長

代替・相補・伝統医療と潜在能力ー II

12:30-13:00 **座長 河野 貴美子** 日本医科大学情報科学センター 主任研究員
特別招待ビデオ講演 スピリチュアルヒーリング (心による癒し) : その科学の現状 316
ウェイン・B・ジョナス¹、シンディ・クロフォード² & ロナルド・A・チェズ³
米国 Samueli Institute for Information Biology、1. 所長、2. 研究助手、3. 副所長
(1. 米国国立衛生研究所 代替医療ナショナルセンター(NCCAM) 元センター長)

■ 午後の部 (13:00-18:10)

こころと体の驚異ー I (13:00-14:30)

13:00-13:30 **座長 青木 孝志** 中部大学工学部 教授
基調講演 外気功には暗示以外の何かが有るか 317
**山本 幹男、小久保 秀之、原口 鈴恵、古角 智子、田中 昌孝、張 トウ、陳 偉中、
小竹 潤一郎、世一 秀雄、河野 貴美子、福田 信男**
放射線医学総合研究所 上席研究員、ほか

13:30-14:00 **座長 内山 明彦** 早稲田大学理工学部 教授
基調講演 21世紀のニューパラダイム 343
佐古 曜一郎 国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事

14:00-14:30 **座長 上田 至宏** 関西鍼灸短期大学 生理学教室 教授
基調講演 特異機能の生理分析 (透視と薬のピン抜けと分析) 345
町 好雄、劉 超、王 強、王 斌 東京電機大学大学院 工学研究科 教授、大学院生、ほか

こころと体の驚異ー II (14:40-15:50)

14:40-15:20 **座長 木戸 眞美** 東北学院大学教養学部 教授
特別招待講演 ケストラー超心理学講座の研究計画および意識の研究 373
ロバート・L・モリス 英国 エジンバラ大学教授

15:20-15:50 **座長 町 好雄** 東京電機大学大学院 工学研究科 教授
特別招待講演中国の人体科学の現状と展望 379
徐 蘭許 中国 中国人体科学学会 理事長

人のもつ未知の可能性

16:00-17:00 **座長 瀧美 和彦** 日本学術会議 会員、東京大学 名誉教授、
日本統合医療学会 代表
日本代替・相補・伝統医療連合会議 理事長

パネル討論 海外よりの特別招待講演者による
全 世一 韓国 Pochon CHA大学代替相補医療大学院院長
ロバート・L・モリス 英国 エジンバラ大学教授
徐 蘭許 中国 中国人体科学学会理事長
ディック・J・ピールマン オランダ アムステルダム大学助教授、ユトレヒト大学教授
ディーン・ラディン 米国 ノエティック・サイエンス研究所主席研究員
劉 天君 中国 北京中医薬大学教授

しなやかな心身

17:10-18:10 **座長 佐古 曜一郎** 国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事
表 演 武術気功 (張家拳) 実演 松本 美恵子 (気功学博士、ピア中国気功整体 師範)
新体道実演 青木 宏之、 ほか (新体道協会)

8月25日(日) 「潜在能力の科学」国際フォーラム& 第14回生命情報科学シンポジウム(国際版)

7:00-8:00 気功指導 劉超 (オルターライフ養生気功インストラクタ教室) 指導員
(晴天:OVTA 向いの公園内、雨天:OVTA2 階ホール渚の前)

総合司会 樋口雄三 東京工業大学大学院 理工学研究科 教授
木戸真美 東北学院大学 教授

■午前の部(9:00-11:45)

9:00-9:10 開会・来賓挨拶 座長 山本幹男 フォーラムコーディネーター

予感・予知と脳活動(9:10-9:50)

9:10-9:50 座長 伊藤正敏 国際生命情報科学会(ISLIS)会長、東北大学 教授

特別招待発表 脳機能画像(fMRI)による予感の研究 380

ディック・J・ピールマン& H. S. SCHOLTE オランダ アムステルダム大学 助教授、ほか

ポスター講演-I(グループI)(10:00-11:15)

(ポスター講演は1演題3分以内です)

10:00-11:15 座長 別華薫(Carl BECKER) 京都大学 総合人間学部 教授

小久保秀之 放射線医学総合研究所 客員協力研究員

- I-1 気圧療法における氣の生理効果- 熟練者と熟練度の浅い人の差異- 389
町好雄¹, 劉超¹, 藤平光一², 石崎俊明², 浜岡勤², 古田土節夫²
1. 東京電機大学電子工学専攻科, 2. (財) 氣の研究會
- I-2 臓器への振動の影響に関する研究- 脈診波形の時系列解析- 392
増本憲泰¹, 土屋喜一², 山川宏², 梅津光生²
1. 早稲田大学WABOT-HOUSE研究所, 2. 早稲田大学理工学部機械工学科
- I-3 Acute Effects of *ChunDoSunBup* Qi-training on Venous Blood Gases and pH 396
Myeong Soo LEE¹, Seong Min JEONG¹, Hye-Sook JANG², Hoon RYU³ and Sun-Rock MOON⁴
1. Center for Integrative Medicine, Institute of Medical Science Wonkwang University,
School of Medicine, Professional Graduate School of Oriental Medicine, Wokwang University, Korea
2. Department of Nursing, Wonkwang Health Science College, Korea
3. Department of Neurology, Harvard Institute of Medicine, USA
4. Department of Radiation Oncology, Wonkwang University, School of Medicine, Korea
- I-4 Effects of *ChunDoSunBup* Qi-training on the Metabolic Rate and Cardiorespiratory Responses 398
Myeong Soo LEE¹, Seong Min JEONG¹, Hye-Sook JANG², Hoon RYU³ and Sun-Rock MOON⁴
1. Center for Integrative Medicine, Institute of Medical Science Wonkwang University,
School of Medicine, Professional Graduate School of Oriental Medicine, Wokwang University, Korea
2. Department of Nursing, Wonkwang Health Science College, Korea
3. Department of Neurology, Harvard Institute of Medicine, USA
4. Department of Radiation Oncology, Wonkwang University, School of Medicine, Korea
- I-5 歯科治療における頰肩部の指圧マッサージと経皮的低周波ツボ通電法(TEAS)の有有用性について 412
上田恵理子、福岡博史、小山悠子、福岡明
医療法人社団明德会福岡歯科統合医療研究所
- I-6 歯科臨床におけるTENS(経皮的電氣的神経刺激法)とTEAS(経皮的経穴通電刺激法)による筋弛緩および心身のリラクゼーション誘導効果の比較 406
小山悠子、上田恵理子、福岡博史、福岡明
医療法人社団明德会福岡歯科統合医療研究所
- I-7 氣の導入の有無による頰肩部指圧マッサージの心身のリラクゼーション誘導効果の比較 400
福岡明、上田恵理子、福岡博史、小山悠子
医療法人社団明德会福岡歯科統合医療研究所
- I-8 磁気波動共鳴分析器(MIRS)による歯科材料の評価と選定 417
福岡博史¹, 上田恵理子¹, 小山悠子¹, 福岡明¹, 野呂明夫², 高橋一祐²
1. 医療法人社団明德会福岡歯科統合医療研究所
2. 東京歯科大学
- I-9 若年者における口唇閉鎖力の成長 422
高橋潤一¹, 野呂明夫², 秋廣良昭³, 高橋一祐²
1. 東京歯科大学歯科保存学第二講座
2. 東京歯科大学歯科保存学第三講座
3. 東京歯科大学水道橋病院歯科学講座

I-10	成人における口唇閉鎖力の経年変化 野呂明夫 ¹ 、高橋潤一 ² 、秋廣良昭 ³ 、高橋一祐 ¹ 1. 東京歯科大学歯科保存学第二講座 2. 東京歯科大学歯科保存学第三講座 3. 東京歯科大学水道橋病院歯科学講座	426
I-11	顎関節と東洋医学 宮城三郎 宮城歯科医院	430
I-12	微量可視光による経絡的効果の照射実験 印藤裕雄 ¹ 、奥健夫 ² 1. TMR 東洋医学室 調神堂 2. 大阪大学産業科学研究所産業科学ナノテクノロジーセンター	434
I-13	VDT 作業により低下したCritical Fusion Frequency の経穴刺激による回復効果 青木孝志 ¹ 、足達義則 ² 、吉田勝志 ³ 1. 中部大学工学部、2. 中部大学経営情報学部、3. 中部大学教養教育学部	439
I-14	脈波の圧力依存性に関する研究 足達義則 ¹ 、青木孝志 ² 1. 中部大学経営情報学部経営情報学科、2. 中部大学工学部情報工学科	444
I-15	張式気功における免疫動態 樋口雄三 ¹ 、小谷泰則 ¹ 、林義貢 ² 、百瀬真一郎 ³ 1. 東京工業大学、2. 武蔵野治療センター、3. 百瀬医院	449
I-16	脳波および自律神経に及ぼす外気の効果—暗示効果と気の効果との違い— 内田誠也、上野正博、菅野久信、新田和男 (財) エム・オー・エー健康科学センター	453
I-17	Exploratory Studies of External Qi in China Zhongpeng LIN ^{1,3} and Kevin CHEN ^{2,3} 1. Chinese National Academy of Qigong, China 2. Dept. of Psychiatry, Univeristy of Medicine and Dentistry of New Jersey, USA 3. World Institute for Self Healing, Inc., USA	457
I-18	Measurement of Bio-magnetic Fields from Human Hands during Qi-Emission Hak-Soo SHIN ¹ , Ku Youn BAIK ¹ , Byung-Doo KWON ² , Sang Yong CHOI ³ , Han Seo KOO ³ , Shin-Ja KO ⁴ and Kwang-Sup SOH ¹ 1. School of Physics, Seoul National University, Korea 2. Earth Science Education Department, Seoul National University, Korea 3. Han-Seo Bio-Magnetic Research Center, Korea 4. Oorinara Co., Ltd., Korea	462
I-19	The Psi Personality in Field Research Michaelen C. MAHER Department of Social Sciences, The New School University, USA	464
I-20	キリスト教の宗教的体験—私の体験から— 森谷峰雄 佛教大学文学部英語英文学科	466
I-21	Public Relationの実践に関する研究—グループに対するPsi トレーニングの開発— 石井享子 国立保健医療科学院福祉サービス部	467

ポスターセッション I (グループ I) (11:15-11:45)

グループ I の発表者は、この時間帯に最低 1 名の質疑・説明要員を各自のポスター前に配置してください。

■ 午後の部 (13:00-18:15)

意識・脳・生体情報系 (13:00-14:40)

座長 足立 義則 中部大学経営情報学部 教授
町 好雄 東京電機大学大学院 工学研究科 教授

13:00-13:20

ヨガによる脳活動の変化に関する脳画像的研究

伊藤正敏、Laxmi Narayan SINGH、山口慶一郎、三宅正泰、鄭明基
東北大学サイクロトロンRI センター核医学研究部

473

13:20-13:40	経穴刺激に伴う脳賦活動態の観察 -functional MRI を用いて-	480
	上田至宏 ¹ 、林功栄 ¹ 、黒岩共一 ¹ 、檉葉均 ¹ 、町好雄 ² 、田邊宏樹 ³	
	1. 関西鍼灸短期大学	
	2. 東京電機大学工学部電子工学科	
	3. 通信総合研究所・柳田project	
13:40-14:00	遠隔ヒーリング効果の測定	491
	木戸眞美	
	東北学院大学教養学部情報科学専攻	
14:00-14:20	各種瞑想法における脳波	512
	河野貴美子 ^{1,2} 、山本幹男 ² 、小久保秀之 ² 、陳偉中 ² 、張トウ ²	
	1. 日本医科大学、2. 放射線医学総合研究所	
14:20-14:40	気功時の脳活動：脳波と光トポグラフィ測定と比較	517
	張トウ ¹ 、陳偉中 ¹ 、世一秀雄 ¹ 、原口鈴恵 ¹ 、河野貴美子 ^{2,1} 、小久保秀之 ¹ 、山本幹男 ¹	
	1. 放射線医学総合研究所、2. 日本医科大学	

意識・特異現象・物理世界 (14:50-16:10)

座長 石井 享子 国立保健医療科学院 福祉サービス部
 平藤 雅之 独立行政法人 農業技術研究機構
 中央農業総合研究センター 情報研究部 室長

14:50-15:10	大学生の超常（異常？）体験と日本人の「宗教性」	526
	別華薫（カール・ベッカー）	
	京都大学総合人間学部	
15:10-15:30	A Review of Qigong Therapy for Cancer Treatment	532
	Kevin CHEN and Raphael YEUNG	
	Dept. of Psychiatry, University of Medicine and Dentistry of New Jersey, USA	
15:30-15:50	Superfluid Vacuum as a Basis for Explanation of Some Phenomena of Parapsychology	543
	Liudmila B. BOLDYREVA ¹ and Nina B. SOTINA ²	
	1. State University of Management, Russia	
	2. Moscow State University, Russia	

潜在能力研究の展望 (16:15-17:05)

座長 伊藤 正敏 国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長、東北大学 教授

パネル討論 潜在能力研究の展望

瀧美 和彦	日本学術会議 会員、東京大学 名誉教授、 日本統合医療学会 代表、日本代替・相補・伝統医療連合会議 会長
杉下 守弘	日本超心理学会運営委員長、東京大学大学院 脳神経医学 教授
高橋 一祐	日本歯科東洋医学会 監事、東京歯科大学 名誉教授
春木 豊	人体科学会 会長、早稲田大学人間科学部 教授
福生 吉裕	日本未病システム学会 常任理事、日本医科大学 客員教授、(財)博慈会 老人病研究所 所長
本宮 輝薫	特定非営利活動法人 日本ホリスティック医学協会 常任理事、心身一体療法研究所
石塚 龍夫	日本催眠学会 監事、ヒューマンクリニカ

表 演 (17:15-18:15)

17:15-18:15	座長 吉福 康郎 中部大学先端技術研究センター 教授
峨眉養生功の実演	王 鳳桐 (中国河北省医療気功医院、河北省北戴河療養院主任医師・教授・副院長)
武術と気功の実演	ザーニ・ダニエレ、ほか (全日本少林寺気功協会)

8月26日(月) 「潜在能力の科学」国際フォーラム& 第14回生命情報科学シンポジウム (国際版)

7:00-8:00 医療気功の体験実践実技指導 (晴天:OVTA 向いの公園内、雨天:OVTA 2階ホール渚の前)
 王 鳳桐 (中国河北省医療気功医院、河北省北戴河療養院主任医師・教授・副院長)

総合司会 河野 貴美子 国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長

■ 午前の部 (9:00-11:45)

9:00-9:05 開会・来賓挨拶

座長 山本 幹男 フォーラムコーディネーター

気功外気 (9:05-9:45)

9:05-9:45

座長 土屋 喜一 早稲田大学 名誉教授 理工学総合研究センター 顧問研究員
特別招待講演 気功外気の実験的研究 555
劉 天君 北京中医薬大学 教授

心身の健康— I (9:55-10:55)

座長 福生 吉裕 日本未病システム学会 常任理事、日本医科大学 客員教授、
(財)博慈会 老人病研究所 所長
小山 悠子 医療法人 社団明徳会 福岡歯科 専務理事

9:55-10:15

Endocrine and Immune Effects of *ChunDoSunBup* Qi-training 559
Myeong Soo LEE¹, Seong Min JEONG¹, Hoon RYU² and Sun-Rock MOON³
1. Center for Integrative Medicine, Institute of Medical Science Wonkwang University,
School of Medicine, Professional Graduate School of Oriental Medicine, Wonkwang University, Korea
2. Department of Neurology, Harvard Institute of Medicine, USA
3. Department of Radiation Oncology, Wonkwang University, School of Medicine, Korea

10:15-10:35

重心動揺からみた気功スワイショウの効果 563
吉田勝志¹、吉福康郎²、青木孝志³、足達義則⁴
1. 中部大学教養教育部
2. 中部大学先端技術研究センター
3. 中部大学工学部
4. 中部大学経営情報学部

10:35-10:55

養生気功における腹式呼吸パターンの測定及び脈波遅延時間の生理効果 570
劉超、町好雄
東京電機大学工学部電子工学科

心身の健康— II (11:05-11:45)

座長 栗田 昌裕 群馬パース学園短期大学 教授

11:05-11:25

ヨーガの各種行法が経験者と未経験者の握力に及ぼす効果 578
吉福康郎¹、吉田勝志²
1. 中部大学先端技術研究センター
2. 中部大学教養教育部

11:25-11:45

イメージ誘導を用いたリラクゼーションの効果—生理心理学的尺度を用いた持続効果の検討— 585
渡邊映理¹、福田早苗¹、原久子²、白川太郎¹
1. 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野
2. 原アカデミー

■ 午後の部 (13:00-17:50)

13:00-14:30

座長 梶野 文義 甲南大学理工学部 教授
福岡 博史 医療法人 社団明徳会 福岡歯科 理事長

ポスター講演— II (グループ II) (13:00-14:00)

(ポスター講演は1演題 3分です)

- II-1 香りによる嗅覚刺激が生体に及ぼす影響—精神生理学的検討— 590
韓在都¹、内山明彦²
1. パブリック・ヘルスリサーチセンター、2. 早稲田大学理工学部
- II-2 各種健康法が生活の質(QOL)に及ぼす効果—大仁瑞泉郷における健康増進プログラムの評価— 594
木村友昭^{1,2}、大榎陽一¹、佐久間哲也²、鈴嶋よしみ³、福原俊一³
1. 東海大学医学部医用工学情報系
2. (財)エム・オー・エー健康科学センター
3. 京都大学医学研究科健康解析学
- II-3 痴呆性高齢者に対する各種刺激の影響 598

	辰巳恵子 ¹ 、足達義則 ² 、足利学 ¹ 1. 藍野学院短期大学、2. 中部大学経営情報学部	
II-4	でのひらの誘電率変化を用いた心身の状態測定 上杉一秀 ¹ 、鈴木昭二 ¹ 、足達義則 ² 、中林弥生 ¹ 、大曲和寛 ¹ 1. 熊本電波工業高等専門学校、2. 中部大学経営情報学部	603
II-5	発気状態と安静状態における生理情報の比較 小竹潤一郎、陳偉中、デミトリパルホムチュク、原口鈴恵 放射線医学総合研究所	606
II-6	Al-Pd-Mn系正20 面体対称準結晶が脳波に及ぼす効果 奥健夫 ¹ 、横山嘉彦 ² 、奥孝子 ³ 1. 大阪大学産業科学研究所、2. 姫路工業大学工学部、3. (財)ヤマハ音楽振興会	610
II-7	イメージ想起が脳波および脈波に及ぼす効果 奥健夫 ¹ 、渡邊映理 ² 、福田早苗 ² 、白川太郎 ² 1. 大阪大学産業科学研究所、2. 京都大学大学院医学研究科	616
II-8	発光ダイオードによる経穴刺激が脳波に及ぼす効果 奥健夫 ¹ 、印藤裕雄 ² 1. 大阪大学産業科学研究所、2. TMR 東洋医学室調神堂	642
II-9	皮膚電気活動を用いた各種感覚刺激が生体に与える影響の解析 白井喜代子、山本尚武、中村隆夫、楠原俊昌、奥田博之 岡山大学医学部保健学科	622
II-10	視覚あるいは体性感覚先行刺激による運動の錯視に伴う脳活動：fMRI による検討 田邊宏樹 ¹ 、柳田敏雄 ^{1, 2} 1. 通信総合研究所関西先端研究センター柳田結集型特別グループ 2. 大阪大学大学院医学系研究科情報生理学教室	627
II-11	Brain Imaging of Respiratory Overloads Targino Rodrigues dos SANTOS ^{1,4} , Yoshihiro KIKUCHI ² , Wataru HIDA ¹ , Jun HATAZAWA ³ , Mehedi MASUD ⁴ , Keiichiro YAMAGUCHI ⁴ and Masatoshi ITOH ⁴ 1. Department of Informatics on Pathophysiology, Graduate School of Information Sciences, Tohoku University, Japan 2. Respiratory Division, Sendai National Hospital, Japan 3. Department of Tracer Kinetics, Osaka University Medical School, Japan 4. Division of Nuclear Medicine, Cyclotron Radioisotope Center, Tohoku University, Japan	631
II-12	脳卒中後の患者の嚥下反射を改善する鍼治療の検討 関隆志、来須正幸、丹治治子、荒井啓行、佐々木英忠 東北大学医学部附属病院老年・呼吸器内科	633
II-13	光トポグラフィ計測によるESP 課題中の脳血液量変化 世一秀雄 ¹ 、小久保秀之 ¹ 、陳偉中 ¹ 、張トウ ¹ 、原口鈴恵 ¹ 、河野貴美子 ^{2,1} 、山本幹男 ¹ 1. 放射線医学総合研究所、2. 日本医科大学	637
II-14	対人遠隔作用実験における脳波周波数のコヒーレンス値 一順位和検定とWelch 検定との比較- 古角智子 ¹ 、福田信男 ¹ 、河野貴美子 ^{2,1} 、山本幹男 ¹ 1. 放射線医学総合研究所、2. 日本医科大学	648
II-15	絵を鑑賞した時の脳波への影響 黒須美枝、渋谷広見 株式会社宗画房	654
II-16	描画による内面の表現 黒須美枝、渋谷広見 日本アートセラピー推薦委員会	658
II-17	10 日間の速読講習による1550 人の心身機能の変化 栗田昌裕 群馬パース学園短期大学	662
II-18	エネルギー照射水、水晶などを使用したヒーリングによる前頭葉部脳波及び気流測定データ変化報告 西本真司 西本第2クリニック	668
II-19	異常電磁信号に関する測定事例報告 小久保秀之、原口鈴恵、古川雅英、山本幹男 放射線医学総合研究所	675

ポスターセッション— II (グループ II) (14:00-14:30)

グループ II の発表者は、この時間帯に最低 1 名の質疑・説明要員を各自のポスター前に配置してください。

心身の健康— III (14:45-15:45)

14:45-15:45

座長 樋口 雄三 東京工業大学大学院 理工学研究科 教授

特別講演 丹羽療法20年の歩み

679

- 1) 天然の生薬活性化の秘訣
- 2) 優れたBiological Medicineの紹介とその薬理作用
- 3) ステロイドフリーの免疫抑制剤軟膏は強力な発癌性がある

丹羽 鞠負 医療法人 修命会 土佐清水病院 院長

意識と物理エントロピー (15:55-16:35)

15:55-16:35

座長 小久保 秀之 放射線医学総合研究所 客員協力研究員

特別招待発表 地球規模の注意集中と物理エントロピーとの関連の探索的研究

690

ディーン・ラディン 米国 ノエティック・サイエンス研究所 主席研究員

意識と物理学・生化学 (16:35-17:15)

16:35-16:55

座長 奥 健夫 大阪大学産業科学研究所 助教授

The Development of a Bio-sensor for the State of Consciousness in a Human Intentional Healing Ritual

694

Eduard P.A. VAN WIJK¹ and Roeland VAN WIJK²

1. International Institute of Biophysics, Germany

2. Faculty of Biology, Utrecht University, The Netherlands

16:55-17:15

気功および発光イメージ時の中指先の温度と生物フォトンの変化

703

陳偉中¹、張トウ¹、世一秀雄¹、小竹潤一郎¹、原口鈴恵¹、小久保秀之¹、河野貴美子^{2,1}、山本幹男¹

1. 放射線医学総合研究所、2. 日本医科大学

表 演 (17:15-17:35)

17:15-17:35

座長 並木 伸爾 日本原子力研究所

一刀流 (木刀形および太刀形) の実演 石山 陸紀、米山 豊広、阿部 傳七 (警視庁) ほか

17:35-17:40 閉会の辞

17:40-17:50 ポスター撤去

懇親会 (18:00-20:00) (エメラルド A, 3 F, ホテルスプリングス幕張 (OVTA より徒歩 5分) にて)

座長 山本 幹男 フォーラムコーディネーター

8 月 27 日 (火)

サテライト・ワークショップ (7:30-11:00) 朝食付き、要予約、OVTA 2 階 2015 研修室

7:30- 開会

7:35-9:30

座長 町 好雄、伊藤 正敏、木戸 眞美

第 1 部 海外参加者の日本の研究とフォーラムへのコメント

9:30-10:00

座長 樋口 雄三、河野 貴美子

第 2 部 フォーラムの総括

10:00-11:00

座長 内山 明彦、上田 至宏、奥 健夫

第 3 部 日本の研究に生かすべき事

11:00 閉会

アフターツアー

9:45 OVTA 玄関発 美浜園 お茶会のツアー出発 (徒歩)

11:35 OVTA 玄関発 皇居のツアー出発 (自動車)

〈基調講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号p.303参照

21世紀は統合医療になる

渥美 和彦

日本代替・相補・伝統医療連合会議 理事長（日本、東京）

要旨：20世紀の科学の時代は終わり、21世紀の人類が共存する時代に入りました。今、東西医療の障壁を乗り越えて新しい統合医療の道を歩む必要があります。この目標を達成するためには、今後も西洋医学が中核的存在としてその実践を展開するだけでなく、代替・相補・伝統医療との融合的・発展的な協調による全人的な医療システムを築き上げる必要があります。

演者紹介：昭和29年、東京大学医学部卒。昭和39年、同大学医学部医用電子研究施設教授。平成元年5月東京大学名誉教授。平成2年、日本工学院専門学校校長に就任。平成6年、第16期日本学術会議会員第七部長。平成7年、鈴鹿医療科学大学学長。平成10年、日本代替・相補・伝統医療連合会議理事長。研究分野は、人工臓器、医用高分子、医療情報システム、医用サーモグラフィー、レーザー医学、超音波ホログラフィー、生体磁気、医学のコンピュータ応用、未来学等。主な受賞：昭和41年朝日学術奨励賞（朝日新聞社）、昭和57年アメリカレーザ医学会賞（アメリカレーザ医学会）、昭和63年バイオマテリアル科学功績賞（日本バイオマテリアル学会）、他多数

渥美和彦 東京大学 名誉教授
〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2
Phone：03-3812-4482, Fax：03-3812-4982
E-mail：k-atsumi@aurora.dti.ne.jp

〈基調講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.304-309 参照

代替相補療法とイチローの打撃

帯津 良一

帯津三敬病院 名誉院長（日本、埼玉）

要旨：代替療法はそのほとんどが Body にはたらきかける方法ではなく、Mind と Spirit、すなわち生命場にはたらきかける方法である。生命場のエネルギー状態は限りない連続を示し、Body のように正常か異常かの二極化は不可能で、これを御するのはアントノフスキーの健康生成論である。したがって、代替療法とは無限の可能性を秘めながら、一步一步地道に前進するための方法である。このことをホームランの可能性を秘めながら、常にはシングルヒットをねらっていくイチローのバッティングを借りて示してみた。

帯津良一 帯津三敬病院
〒350-0025 埼玉県川越市並木西町 1-4
電話 049-235-1981 FAX 049-235-8063

〈基調講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp317-342 参照

外気功には暗示以外の何かがあるか

山本 幹男¹、

小久保 秀之¹、原口 鈴恵¹、古角 智子¹、田中 昌孝¹、張 トウ¹、
陳 偉中¹、小竹 潤一郎¹、世一 秀雄¹、河野 貴美子^{2,1}、福田 信男¹

¹山本生体放射研究室、放医研 (NIRS)、千葉、日本

²情報科学センター、日本医科大学、東京、日本

要旨：外気功とは、気功師や武道家が非接触で自分の体の外の他人、生物や物体に影響を与えていると言われている現象を指す。非接触でも、他人の体を揺らしたり病気を治したりできるとも言われている。非接触の外気功に関し、暗示効果以外の何かがあるのか無いのかを検証する厳密な科学的実験法を模索し試みている。

本報ではその一部として、二重盲検試験、無作為（ランダム）化、統計解析の手法で、離れた別室に居る相手を動かす「遠当て」の実験、気功師の手からの送気の一般情報遮断状態での感知実験、気功師による培養細胞の増殖能力回復実験について報告する。

本研究は科学技術振興費「多様同時計測による生体機能解析法の研究」（1995年度から5年間）の一部として行われ、その後、一新パラダイム創成に向けて一試行的研究プログラム「多様計測による特殊生体機に関する研究」（2000年度から）の一部として継続されている。

山本幹男 博士(工学)、博士(医学)
放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 山本生体放射研究室 代表
Phone : 043-206-3066 Fax : 043-206-3069
E-mail : yamamo@nirs.go.jp http : //wwwsoc.nii.ac.jp/islis/belabo.htm

〈基調講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号pp.343-344参照

21世紀のニューパラダイム

佐古 曜一郎

国際生命情報科学会 理事（日本、千葉）

要旨： 21世紀は現状のパラダイムのままでは立ちゆかないと思われる。20世紀は効率最優先の、物質的な欲求を追い求める時代であった。21世紀はそんな時代と決別し、「心」を最優先とする、精神的な充足に寄与する科学技術を構築すべきである。その中心的な研究テーマが、再現性や客観性だけでは捉えきれない「心、精神、霊性、意識」に関わる研究である。本講演では、特異的な現象や人間の潜在能力に関わるいくつかの実験データを紹介し、21世紀の科学技術の進むべき方向性を考える。

概要

われわれは今21世紀にいる。

20世紀は物理学を中心とする科学技術の急速な進歩による物質文明の発展の世紀であった。大量生産を背景とした工業製品の奔流の時代は、物的資源をいかに困り込むかという国家と企業の攻防の歴史でもあった。攻防の中で得られた生活の豊かさは大きかったものの、その物質的な充足は、必ずしも精神的充足に結びつかなかった。

21世紀は有限な物的資源ではなく、無限の心的資源に目をむける時代でなければならない。科学技術も「人間はどこから来て、どこへいく

のか？何のために、どう生きるのか？」という根源的な問題まで、深く考える哲学を持つ必要がある。

われわれはこの21世紀に、物質的な時代を精神的な時代に導くという、重大な使命を持っている。その歴史的な転換をできるだけ早く高らかに宣言すべきである。できれば、このHuman Psi Forumにて。

中でも「心、精神、霊性、意識」に関わる研究は、重要な役目を担う。この研究は「心身二元論」「要素還元主義」では解明できない、心と身体との相互作用などの複雑な現象に取り組まなければならない。さらに人間という小宇宙と、広大な大宇宙を包含する未解明の壮大な情報系に踏み込むことが要求される。それはまさに大自然を含めた生命の本質を問い直す試みである。

本講演では、特異的な現象や人間の潜在能力に関わるいくつかの実験データを取り上げ、報告する。特に場の雰囲気も含めた実験条件の変化による実験結果への影響の評価内容を報告し、21世紀のニューパラダイムはどうあるべきかの問題提起とする。

佐古 曜一郎 国際生命情報科学会 理事
〒263-8555 千葉市稲毛区穴川 4-9-1 放医研・山本生体放射研究室 気付
電話 043-206-3069 Fax 043-206-3066
E-mail isis@nirs.go.jp

〈基調講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.345-372 参照

特異効能の生理分析 (透視と薬のピン抜けと分析)

町 好雄、劉 超、王 強、王 斌

東京電機大学大学院工学研究科(日本、東京)

要旨：透視実験を行い、各種の生理測定を行い、透視という現象がどのような状態であるかを測定した。その結果、交感神経系を活発にしておいて、瞬間に副交感神経系を強めていることがわかった。この時には、首と額における血流が増加していることが分かった。さらに血圧の増加も見られ、血中酸素濃度が減少することも分かった。このような能力を発揮する時には GSR のデータ中に振動現象が見つかった。この現象が表れる時は脳波トポグラフから視角野と前頭葉が活発になりそれらの場所の電位が瞬間的に上昇し、2ヶ所の場所の活動が接がっていることが観測された。特に前頭葉では右脳側の活動が高くなった時に生理が大きく変化することがわかった。

また、能力者が手を触れないで物体を移動するという実験を生理測定により計測を行った。透視と同様に、能力を発揮すると血中酸素濃度が減少し、その直前で首における血流が増加するのは同様であった。能力を発揮している時間は手、足の温度が減少した。能力を発揮した瞬間の時間に、呼吸状態が変化していた。GSR 中に見られる振動現象はこの実験でも確かめられた。この振動周波数は 1.4Hz で脳波的には δ 波の領域であった。

脳波トポグラフィで調べると、筋電のような脳波が時々見られ、可

能性のある場所では短時間ではあるが δ 波が強く現れた。この δ 波は左前頭部と側頭野の中間で発生し、それが左後頭部まで活動範囲が広がった。この δ 波の活動電位が最も高い所で物体が移動したと考えられる。この活動領域は透視が右脳であったのに比べて逆であった。またこの薬を移動するときの活動電位は、通常の電位に比べて大きな電位であった。

町 好雄 人体科学研究室
〒101-8457 東京都千代田区神田錦町2-2
電話：03-5280-3360 FAX：03-5280-3565
E-mail：machi@d.dendai.ac.jp

〈海外招待講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.310-315 参照

全体的治療における心と体の関係 (Mind/Body Relationship in Total Healing)

全 世一
(Sae-il CHUN)

韓国 Pochon CHA 大学 代替相補医療大学院 院長 /
会長：Korean Society of Alternative Medicine /
会長：Korean Jungshin (Qi 氣) Society /
副会長：Int'l Soc. Phys. Rehab. Med.

(Pochon CHA University, Graduate School of Complementary
Alternative Medicine (Seoul, Korea))

要旨：ともに西洋医学、東洋医学でも最大の目標は病気を無くし健康な状態を保つことにある。現在、西洋医学は科学的取り組みを取るのに比べ東洋医学はまだ人間性重視の取り組みを保持している。5千年の伝統医療はまだ治療法分野で21世紀の現代科学医療に挑んでいる。“病気優先”の西洋医学は人間のおかれている状態を“病気”と“無病”の状態とに分類する。しかし“健康優先”の東洋医学は“健康”と“不健康”の状態とに分ける。普段の健康を保つためには5つの原則が強調されている。それらは、1) 正しい食生活、2) 正しい運動、3) 十分な睡眠、4) 正しい呼吸、5) 健康な心。不健康な状態を健康な状態へ逆転するには以下のような方法が有効である。1) 天然薬療法、2) 運動療法、3) 刺激療法（鍼治療、灸治療、指圧、吸角治療、など）。病気を排除するには4つのアプローチ、すなわち1) 化学的、2) 身体的、3) 心理的、4) 外科的、な治療が使われている。多くの伝統的な医療があり、隠れた民

間医療、そして多種のあまり認められていない治療法や説が存在する。その幾つかは東洋文化に由来し、また他は西洋文化から由来している。西洋医学の専門家は客観的に科学的方法によってだけ明らかに証明された情報だけが、（従来の）西洋医学として認められると主張している。それ以外のすべての医学的治療と健康法は、ひとくくりに“代替医療”または“相補医療”と呼ばれている。WHOによるもっとも新しい健康の定義は“健康とは身体的、心理的、社会人間的、そして霊的な健康を含んだものである”。代替医療はこの新しい健康というコンセプトを扱う上で、より多く広い範囲での方法論を提供している。東洋医学と代替医療は人間性重視の取り組みを用いて人全体を癒すという共通の特徴を持っている。すなわち、“人を癒す”ということは“有機体の病気を治療する”ということだけではないのである。心は感情、知識、意識、直観、そして魂という要因から成っている、その一方で体は形、強さ、エネルギー場、生命力、そして遺伝という要因から成っている。これら心と体の10の要因に調和がとれ、お互いのバランスがとれている時、治癒機能は最大のレベルにまで活性されている。同じように、健康はこれらすべてが調和されているときにしか達成されないものである。

Sae-il Chun, M.D.
Graduate School of Alternative Medicine,
605 Yuksamdong, Kangnamku, Seoul, Korea
Telephone : (822) 3468-3401 Fax : (822) 3468-3345
E-mail : chunscam@yahoo.com chunscam@hanmail.net

〈海外招待ビデオ講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 p.316 参照

スピリチュアル ヒーリング（心による癒し）： その科学の現状

（ Mental and Spiritual Healing :
A Critical Review of the Science ）

ウェイン・B・ジョナス、シンディ・クロフォード、ロナルド・A・チェズ
（ Wayne B. JONAS, Cindy CRAWFORD and Ronald A. CHEZ ）

米国 サミュエリ情報生物学研究所
（ Samuelli Institute for Information Biology (CA, USA) ）

要旨：この講演は、スピリチュアルヒーリングに関連する主要5 領域において、科学的知見の量的側面と質的側面を紹介する。また、下記の事項にも触れる。

- 1) 宗教的・精神的実践の健康への影響
- 2) 助けの祈りと治癒の祈り
- 3) 心-物質間相互作用の研究
- 4) 生命システムに対する直接的精神作用
- 5) 機器を使わない「エネルギー」療法
- 6) 臨床現場におけるヒーリングの影響

さらに、この調査研究から示唆されるスピリチュアルヒーリング、エネルギー医学、意思力の研究の今後について議論する。

ウェイン・B・ジョナス博士の紹介：

米ノースカロライナ州のパウマン・グレイ医学校卒。アメリカ家庭医学会会員。陸軍軍医としてドイツにおいて、ホメオパシー、生体

エネルギー療法、心身療法、病床宗教教育などの教育訓練を受けた。ワシントンのウォルター・リード陸軍研究所で免疫学や毒物学を研究。米国の生物・医学の研究と予算配分機関である国立衛生研究所 (NIH) の代替医療局 (OAM) (現在の国立補完代替医療センター：NCCAM) の局長となり、代替医療分野の研究配分予算を大幅に増加させた最大の功労者である。博士は、補完代替医療に関する優れた研究データの収集と評価、その情報の伝達・普及に努め、今後医療が進むべき新しい方向を示し、それは日本国内の医療をめぐる動向にも大きな影響を及ぼしている。

Wayne B. JONAS , M.D.
Director, Samueli Institute for Information Biology,
Suite 300, 2101 E Pacific Coast Highway, Corona del Mar,
CA 92625-1900, USA
Phone: 949-760-4417 Fax: 949-759-5707
E-mail: wbjonas@aol.com

〈海外招待講演〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号pp.373-378参照

ケストラー超心理学講座の研究計画 および意識の研究

(The Koestler Parapsychology Unit and the Study of
Consciousness)

ロバート・L・モリス
(Robert L. MORRIS)

英国 エジンバラ大学 哲学・心理学及び言語学部
ケストラー超心理学講座 教授

(The Koestler Parapsychology Unit , School of Philosophy, Psychology
and Language Sciences, University of Edinburgh(Scotland))

要旨：ケストラー超心理学講座（KPU）は一部の個人の未確認感覚運動機能による環境との交流能力の組織的かつ信頼性の高い研究を行うために、1985年に設立された。もしこのような能力が存在するのであれば、人間の意識と心の本質について、精神世界の一面に重要な意味合いを投げかけることになる。一つ以上の新しい機能が働いているかもしれない。それは物理学の新側面を切り開くだけでなく、心と物質の間の直接的相互作用に新しい意味をもたらすかもしれない。私達の講座の研究は3つの主要分野を含む。一つめは身体的要因の研究、なぜならそれらが脳と心の能力に影響している可能性があるため。二つめは心理的経験の研究、経験をどのように解釈しているか、どのような状態がそれらの経験に役立つのか、どのような認識過程が含まれているのか、そしてどんな心理学的説明がこのような経験につけられるのか。三つめはこのような経験が、哲学的に、人に、そして社会全体にもたらす意味合い。もしこのような経験を見極めるには、少なく

とも 12 通りの解釈がある。偶然、不適切な観察、観察の誤解釈、不適切な記憶、隠れた身体的要因、自己をだますこと、他人からの詐欺、情報処理の機能的誤認識、情報処理の生物学的誤認識、十分に理解されていない身体的要因、現在知られていない自然の処理過程、そして超自然な原因。最初の 10 は現在の科学的知識を含む。11 つめは超心理学から生ずる新しい種類の知識、そして 12 つめは可能な超自然効果、つまり科学が調査しきれないものである。上記の一部として、私達のいくつかの研究は人がどのように信念を作り、保持するのかということを含む。そしてそれは信じているものに対し極度に達すると機能障害を引き起こす信念も含む。上記に加え、幾つかの私達の研究は心霊現象の純粋な例であると思われるものも取り扱っている。例えば、私達は遠くから他人の覚醒度や意識集中度を変化させられる人の能力を研究する。また、軽い感覚制限状態にある人が離れたところにあるモニター画面に映し出された鮮明な映像に影響されるという能力も研究する。この実験はいずれも私達の研究所以外でも明るい見通しの結果が出ている。また後者の方法は、創造力の高い人において、特に強力な結果が出ている。これらの結果を総合的にまとめると、私達には従来の物理学、生物学、心理学の範囲を超えて環境と相互作用できる能力があることが示唆される。これはすべての関わっている機能がさらに全面的に理解されるまで、私達自身に対する知識と意識の性質の知識はとても不完全なものとしてありつづけるであろう。

Robert L. Morris, Ph.D.
Koestler Parapsychology Unit, School of Philosophy,
Psychology and Language Sciences, University of Edinburgh
7, George Square, University of Edinburgh, EH8 9JZ, UK
E-mail: rlmorris@ed.ac.uk

〈海外招待講演〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号 p.379 参照

中国の人体科学の現状と展望

(The Present Conditions and the Prospects of Somatic Research in China)

徐 蘭許
(Lanxu XU)

中国 中国人体科学学会 理事長
(President, Chinese Society of Somatic Science (Beijing, China))

要旨：中国科学院の院士である銭学森は、「特異功能」は「人体科学」の重要な一部分であると提起した。中国は、特異功能について20年にわたる研究の歴史がある。

特異功能の学術的客観性について、大論争が起きたことがある。その争点は特異功能現象の信憑性であり、一部の学者は常軌を逸したものだ、自然科学の原則を逸脱したインチキ、マジック、トリックなどといって批判した。一方、一部の学者はこれを真摯に受け止め、何度も繰り返し研究した。彼らの多くは、科学的観察と使い得る限りの科学的手段を用いて測定・研究し、その結果、特異功能は認めざるを得ない客観的事実であるとの結論に達した。また、特異功能について多くの規則性を観測した。

人体は、開放的かつ複雑かつ意識をもったマクロシステムである。気と経絡は、人体というマクロシステムに隠された重要なパラメータであり、特異功能現象を深く研究することは、人体をさらに深く理解し、人体の潜在能力をさらに開発し進歩させる力となる。それは21世紀の科学革命を触発するきっかけとなり、量子力学や相対

性理論以上に意味深い科学革命となるかもしれない。

本講演では、さまざまな特異機能現象のうち、特異感知（ESP）についてその規則性と興味深い研究結果とを述べ、さらに、特異機能のメカニズム研究における大胆な仮説—たとえば、機能態説、類電磁場説、多次元空間説—について、簡単に紹介する。

徐 蘭許 教授（校長）
中国 黒竜江省哈爾濱市 黒竜江大學内 宿舍 22 楼 4-501
E-mail : xulxu@0451.com

〈海外招待発表〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.380-388 参照

脳機能画像（fMRI）による予感の研究 （ A fMRI Brain Imaging Study of Presentiment ）

ディック・J・ビールマン
（ Dick J. BIERMAN and H. Steven SCHOLTE ）

オランダ ユトレヒト大学 超心理学講座教授、
アムステルダム大学 心理学科 助教授
（ University of Amsterdam (Amsterdam, Netherlands) ）

要旨：この研究は予想の神経基礎を機能的磁気共鳴画像法（fMRI）によって調べたものである。10人の被験者は48枚の画像が呈示されている間、それをずっと眺めていた。各刺激系列は、予想の測定前と測定中に、4.2秒間の凝視点の呈示で始まった。同じく4.2秒間の刺激画像の露出の後、被験者が刺激呈示から回復する期間として8.4秒が与えられた。実験の結果、視覚野の大部分が平穏画像時に比べて、情動画像の後により活発になることが分かった。差異の見られた全ての脳領域は、扁桃体またその近傍領域を除いて、平穏画像にも反応した。ここでは暴力的画像と性的画像は反応を発生させるが、平穏画像に対する反応は変化が少ない。予想効果はベースラインの値に影響しやすく、そのため反応値にも影響する。これは、被験者が次に現れるであろう映像の種類を推測している場合には問題になるが、適切なランダム化が行われていれば理論上、推測は不可能である。映像の種類ランダム化は差し替えと共に慎重になされ、また各刺激呈示には異なった画像が使われた。適切なランダム化にも関わらず、結果は情動画像の呈示前の先行活性化は中立画

像の前のそれよりも大きかったことを示した。男性被験者では性的画像の前にこの効果が現れ、女性被験者では性的画像と暴力的画像の前にこの特異な効果が現れた。この「予感 (presentiment) 」とも呼ばれる明白な異常について、考え得る説明を検討する。最も有り得そうな可能性は、この効果が、多くの可能な分析方法の中から適切な分析方法を正しく「釣り上げた」からだ、というものだ。情動刺激と平穏刺激に対する反応の差異の効果について、探索的な結果を報告する。

Dick J. Bierman, Ph.D.
University of Amsterdam,
Roetersstraat 15, 1018 WB Amsterdam, Netherlands
E-mail: bierman@psy.uva.nl

〈海外招待発表〉 国際生命情報科学会誌 20巻2号 pp.555-558 参照

気功外気の実験的研究

(A Review on Experimental Research of
External-Qi of Qigong)

劉 天君
(Tianjun LIU)

中国 北京中医薬大学 教授
(Beijing University of Chinese Medicine (Beijing, China))

要旨：気功の基礎科学研究の一部として、1980年代、外気（気功外気）の実験的研究が盛んに行われ、社会的注目を集めた。本報告は、最近10年間の気功および外気の実験研究約170件を分析・評価する。本報告は、実験科学の観点からは、気功外気の客観的実在を肯定する確証が未だ得られていないことを述べる。しかし、確証が無いことは否定を意味しない。研究においては、実験科学で確証されていないものは、前科学、あるいは人々に理解されていない科学、あるいは疑似科学と呼ぶべきであろうが、だからといって、すべてが疑似科学というわけではない。これまでの実験が気功外気の実在を実証する基礎として十分でなかっただけであり、否定を意味しない。現在のところ、外気の実在を否定するには実験的基礎が十分でない。本発表では、2種類の外気の定義と、外気の実験的研究を促進する5つの方法を取り上げる。定義の1つは、気功外気はよく訓練された気功実践者の身体から非接触的方法で送信される生物学的作用力の1種というものである。5つの手段には、二重盲検法の適用、多重対照実験の推進、誤差分析、作動過程の説明、他

の実験室で違う実験者による再現の推奨などを含む。

Prof. Tianjun Liu
Mail Box 153, Beijing University of Chinese Medicine
11 Bei San Huan Dong Lu, Chao Yang District
Beijing 100029, China
E-mail : liutj@2911. net Phone &Fax : 86-10-64286724

〈海外招待発表〉

国際生命情報科学会誌 20巻2号pp.690-693参照

地球規模の注意集中と物理エントロピーとの 関連の探索的研究

(Exploratory Study of Relationships between Physical
Entropy and Global Human Attention)

ディーン・ラディン

(Dean Radin)

米国 ノエティック・サイエンス研究所 研究室部長
(Institute of Noetic Sciences (California, USA))

要旨：乱数を常時発生させ続ける物理乱数発生器（RNG）が世界各地に配置されている。この乱数発生器同士の関連現象を調査した結果、2001年で最も大きな関連（一日平均）を検出した日は、2001年9月11日であった。その日は驚くべき量の世界的注目が、前例のないアメリカへのテロ攻撃に伴って発生した。この偶然をより一般的に解明するために、世界的規模のニュースが報じられた日の乱数発生器の出力結果（関連現象の測定値）と平穏な日の値との比較が一年間行われた。予測は関連現象の存在を支持し、結果は統計的にも有意なものであった ($p=0.004$)。独立の物理乱数システムが観察されたエントロピーの同期的揺らぎは、多数の人が注目する出来事と密接な関わりがあるかもしれないことを示唆する。これらの観察結果に対する一つの解釈は、心と物質は基本的に結びついているということである。

Dean Radin, Ph.D.
Laboratory Director,
Institute of Noetic Sciences, Petaluma, California, USA 94952
E-mail DeanRadin@noetic.org